

愛

題字 春霞 書

日本福音ルーテルなごや希望教会

発行所 名古屋市千種区今池 3-5-19

今池礼拝所

Tel.052(732)5545

名古屋市千種区富士見台 4-100 自由ヶ丘礼拝所

Tel.052(722)5796

名古屋市名東区高柳町 708

名東礼拝所

Tel.052(771)5267

発行者 末竹 十大

2014年7月13日発行

季刊 第21号

神の恵みの働き

牧師 末竹 十大

「獲得された信仰は悪しか行わない。」とマルティン・ルターは言った。悪を行うのであれば、信仰ではないであろう。しかし、悪しか行わないにもかかわらず、自ら「信仰」だと思い込んでいる「信仰」があるとルターは言うのである。

「獲得された信仰」とは「注入された信仰」の対義語である。「獲得された信仰」は人間が主体である。「注入された信仰」は神が主体である。この違いは大きい。神と人間は並列ではない。我々人間が主体であると主張する場合、人間が神の上に君臨している。神が主体であるという場合、人間が神の前にひれ伏している。「注入された信仰」とは、人間が神の前にひれ伏す信仰である。

「獲得された信仰」は神の恵みをいただきながら、新たな律法を作り出してしまふ。恵みが働くということを理解できないで、恵みに応えなければと考えてしまうのである。こうして、新たな律法は恵みの働きを妨げるものとなる。

恵みは神の働きである。神が働くがゆえに、恵みなのである。人間が恵みに応えて働かなければならないとするならば、恵みはきっかけにしか過ぎない。恵みに応えないならば、恵みを受けたこと

が失われてしまうと考える。すると、恵みを受けていながら、

失わないように人間が働くということに陥ってしまうのだ。こうして、人間は神の恵みの働きを、人間の業にしてしまうのである。

恵みに応えることも、人間の働きではなく、恵みの働きである。そうでなければ、恵みではなくなるのだ。恵みを受け取っていれば、「応えなければ」などとは考えないであろう。「応えなければ」と考えること自体、人間の判断である。人間の価値観である。これでは、人間が「応える」ことにおいて、神の恵みに相応しくなるのだと言わんばかりである。

恵みが働くとき、我々の応える業は必然的に生じる。恵みを十分に受け取っているならば、必然的に恵みに応えていく。それだけなのだ。マタイ 25 章 31 節以下の羊たちも、自分が善きことを行ったことを知らない。しかし、神は認め給う。神が行わせたからである。右手のすることを左手に知らせないこと(マタイ 6:3)においてこそ、「注入された信仰」が働いている、神の恵みの働きとして。



新会堂建築に向って 私の理想の教会

8月31日に今池礼拝所で行う今年の「1日修養会」は、建築プランナー・高垣建次郎氏を講師に迎えて新会堂建築をテーマに行います。

新会堂建築は決まったものの、まだ漠然とした想いの方も多いと思います。そこで今回「私の理想の教会」と題して教会の何人かの皆様にご意見を伺ってみました。

教会の扉を開けるまで

近い将来、なごや希望教会は新しい一つの会堂として建築されます。その会堂を思うとき私が最初にイメージするのは教会の扉を開けるまでのアプローチです。

今池の地にあって繁華街を通して教会に近づいたとき、目前にはもう教会の空間にいるような「アプローチ」がある。そこを歩いて教会の扉を開けると、神さまに招かれ、集められて礼拝に与る喜びが満ちてくる……・

4月に行われた高垣建次郎氏の「教会建築の学び」に出席しました。海外の教会や、高垣氏が手がけられた数々の建築物のスライドを見せて頂きました。それらの建築物には斬新な発想とセンス、そして自然が配慮されており、説明を聞きながら誠実なお人柄が伝わってきました。このようなお方の指導のもとに会堂建築が行われたら（敷地の面積や様々の制約があると思いますが）その「アプローチ」も夢ではないと思っています。

（大野比奈子）

身の丈にあった教会に

賞味期限切れの者に理想の教会を書けとの要請にダイブン悩みましたが、無い頭を絞り次のような事が浮かびました。

- ①聖書朗読台と説教台と聖壇は現在の物を使用して欲しいと言うより使用をすべきと考えています。無垢の材料で設置してから12～3年しか経っていない。
- ②会堂の大きさ、姿、壁、は身の丈にあった姿になれば良いと考えている。
- ③会堂内部は音響と落ち着いた雰囲気子供と共に礼拝に参加出来る構造に配慮すべきと思います。
- ④こどもの教会礼拝、分級の部屋。会食の出来る部屋。事務室、台所、等など平凡な事柄しか思い浮かばない。

（市川 旬）

人々がイエス様に関わる為に

年を重ねることによって、自分の罪深さを少しだけ自覚できるようになります。そのことによって他の人に対して、ほんの少しだけ寛容になったようです。これもイエス様との関わりがあったからです。年を重ねても、生きる希望を失うことがなくなったのもイエス様が支えてくださっているからです。多くの人がイエス様と関わって豊かな人生を送ってもらいたいものです。多くの人々がイエス様に関わる為に新しい会堂建築をしたいものです。

（浅井 敬）

神様の思いが伝わる教会

教会は、ときに港にたとえられる。航海から帰った船を修復し、燃料や食料を補給して次の航海へと送り出す。

この世の船路から、人は教会（礼拝）に戻り、神のもてなしを受ける。ルターは礼拝を「神のおもてなし」と呼んだ。

礼拝では、航海中に痛んだ我を神の前にさらけ出す。「キリエ、エレソン」と。我が身にみ言葉が注がれ、次の航海へのエネルギーとなる。ヌンク・ディミティス。眉をあげ、祝福を受けて出航だ。

礼拝で示されるのは「十字架」、それを照らし出す「光」が欲しい。光は、グロリア、サンクトゥスの象徴にもなろう。

願わくは、賛美の歌に唱和する会堂であって欲しい。「音響」も大切な要素だ。

（松隈 芳久）

教会ってね

キリスト教とは縁がなく生まれ育った私が初めて見た教会は、小学校の通学路にある主税町教会だった。10歳の時守山区のいなか（当時）から街の真ん中に引っ越しドキドキした私。憧れの歩道橋を渡ると古めかしいレンガ塀があり、そこは大きな櫓の緑がゆれていて、奥に見え隠れする白い教会があった。毎日覗いたが近寄りたがい所であった。でも記憶の中に入っちゃいけない所に走って出入りする数人の子供がいる。何かやらかしたかな。

そんなわけで、私にとって教会は緑のなかにある一目で教会とわかる建物。扉

を開けると、シンと重い空気があって、見上げると光が射し込む先に十字架がある。待っていて下さった方と出会えたような優しい空間がある。静かに流れる時。あ〜いいなあ。（鈴木 一恵）

どこにいるのですか

私の居場所

重い足を引きずりながら、手入れの行き届いた前庭を通り、ゴルゴタへの道を思わせるスロープを一步一步ゆっくり歩いた。心は不思議と喜びで満たされている。扉は自然に開きホテルのフロントとも違う、センスの良い美術館とも違う何とも言えない大自然の中にあるような空間が私を包み込んだ。

いかにも人の良さそうな人が「よくいらっやいました。」と声をかけてくれた。

会堂に入ると高い天井から優しい自然の光が差し込んでいる。方舟か母の胎の中のような空間だ。目を凝らすと窓も、扉も床も照明もイエスを称えるにふさわしい作りだ。誰が考えたのだろう。

オルガンの音色が静かに又重厚に響き渡っている。

正面を見上げると十字架がある。磔刑のイエスと深く慈愛に満ちた眼差しで語りかけるイエスが重なる。

「お母さん、探しましたよ。」と嫁が優しく声をかけてくれた。

私の居場所はここに決まっているのに。

（嶋 昭江）

今年の1日修養会は8月31日、今池礼拝所で行います。是非参加下さい。

春のバザー、あれこれ

5月25日、自由ヶ丘礼拝所で恒例の「春のバザー」が開催されました。当日は天候にも恵まれ、春の息吹を感じながら楽しく時間を共有することができました。近くの小学校で体育祭が催されていた影響か人出は少なかったようですが、無事に終わることができ感謝します。

そこでバザーで奉仕されていた方々にご意見、感想を伺ってみました。紙面の都合で掲載できなかったご意見もありますがお許し下さい。

★自由ヶ丘の「バザー」でいつも素晴らしいと思うのは、準備の段階で「どうなるんだろう…」と書いていても、必ず当日間に合うように整えられ、そして終わった後も残ったものをすぐに片付けて綺麗になることです。

★教会員の高齢化が進み準備が大変になった。今までのようには運営できないのではないかと心配。

川 柳

教会の 献品の山 神の業
退蔵の 品目の目みて 深呼吸
バザーとて 真剣な目で 品定め
伝統の バナナケーキが 友を呼ぶ
絞り手と グレープジュースが 新鮮味
お袋の 味が浸み込む 寿司カレー
あした咲く 希望を信じ 苗木買う
マイク持ち 天まで届け 汗と声
掛け声と バランスの良さ テント張り
(丹羽とし子)

★ジュース屋さんの売り子さんたち、全体に響き渡る元気な声で会場の雰囲気盛り上げて下さってよかったです。合同の力で無事終わることができ感謝でした。

★今年が最後のつもりでバザーに対応しました。楽しくがモットー。自分もお客様も楽しくゆったりと出来たと思います。

★お客様が少なく、半額になる頃には半減？バザーの意味を考えさせられます。時代が変わって来ています。物の時代ではないのかも？

★希望教会（自由ヶ丘礼拝所）は、地域に根ざして愛され(?) てきたと感じていましたが、それは古い世代の方々にのみだったのかと悟りました。これは新しい世代を育てられなかった我々の責任かとも思います。

★町内の宣伝が足りなくて（バザー開催が次の週と思っていらした方が多く）当日は退蔵品を売る事にのみで、たくさん出た食料品は残った。今年最後と張り切ったわりには宣伝不足。お天気が良かったのでマイクで当日でも……チラシの配り方に工夫するべきだった。

★神様からのみ恵と御配慮を戴き好天にも恵まれ前日の設営から開催まで兄弟姉妹の協力奉仕で順調に開催でき感謝です。インマニエル会6人と村松兄のお婿さん栗本兄の指図に従いテント張り、ブルーシート張りと無事に準備ができ本当に助かりました。当日は地区の小学校の運動会と重なり、例年より地域の人への参加は少なくなりましたが、近隣の人たちと兄弟姉妹が食堂で楽しくお話しているのを拝見しほのぼのしました。

ペンテコステと子どもたち

堀 育美

「風車で遊ぼう」と野外礼拝で遊ぶことが1ヶ月前のこどもの教会スタッフ会議で決まり、各担任が「ペンテコステ」の話しをしてから制作することになりました。どんな風車を作ろうかと考え、材料準備を進めていくうちに「子どもたちにはどう伝えればいいんだろう」「聖霊？」「聞かれたらどう答えればいいんだろう」不安になってきました。通って来てくれている子どもたちは、いつも私の言葉に素直に耳を傾け、受け入れてくれている子どもたちなのです。私は聖書、関連する本を読み、先輩先生に尋ね、考え、悩み、祈る日々でした。そんな中、『KK 便り』に書いてあった末竹牧師の文に目が止まり、これだ！と思い、迎えた日曜日でした。「聖霊の『霊』は、『風』という言葉と同じです。風のように神さまの息が吹いて、一人一人を神様の器として生かしてくださるのです。聖霊が降ると神様の心がわかり、神様のことを伝えることができるようになります」。

「聖書に聖霊は風のように彼らのところに吹いて来たと伝えているから、風は見えなくても、風車を作りそれが回ること風が吹いているって感じたい」と子どもたちに伝えました。「早く風車を作ろう」と子どもたち、好きな色紙を選び、折り、切り、貼り、風車の形にして、真

ん中をピンで留め、ストローに付け出来上がり、興味のあることには早い作業。あっという間に二つ目の制作をしている子どももいました。「次は大きさを変える」「ストローを長くする」子どもの発想力は凄い！ペンテコステの時、「風車を作ったな〜」って記憶に残り、「何でだったかな？」って考える時がいつか来て欲しいと願う私でした。

迎えたペンテコステ！今年は場所を平和公園に移し、牧師先生のギター演奏で

讃美歌♪「聖い御霊よ」をみんなで賛美し親子13組(29名)と共に晴天の中、礼拝を守ることができました。分級では「回った！風が吹いている！ぼくの凄く回っているよ！」どの



子の風車も長く回り、風を感じながら遊ぶことができました。

神に仕える者として、こどもの教会教師をさせていただく恵みを与えられたことに感謝する日々です。神によって成長している子どもたちに出会えた事にも感謝です。これでよかったのかな？と分級が終わった後、振り返る自分がいます。私は証としてたたされていることを信じ、これからもみことばに耳を傾け学び、信じ、祈り、命を喜んで、真剣な眼差しの子も達と一緒に毎日を喜んで生きて行きたいです。子どもたちが家族の中や学校生活の中で、聖霊により生かされていることを信じ歩んでいくことを願っています。

神様からいただいた賜物

林 武子



重野牧師が
今池礼拝所
(名古屋教会)
在任中の時で
すから洗礼を
授かってから、
かなり長い時

間が経過しました。

洗礼は授かったものの教会活動もそれほど熱心ではなく、「洗礼の恵み」の意味も深く理解することなく、はしゃぎまわって時間ばかりが経過し、自分の命を考へることすらなかった私に、一つのとげ(病)が与えられました。

「どうして私に…」と思い悩みながら過ごしていたある日、出席した教会の聖研でこのみ言に出会いました。このみ言に出会った時、私は鮮明な印象を持ったことをはっきりと憶えています。自分ではどうする事もできない病と向き合いながら「もしかして、これは私にとってとても重いみ言ではないか」と思うようになりました。

神様が私を愛し、弱い私が神様から離れ、躓くことのないように、「病」という恵みを与えてくださったのだと…、ひょっとしたら間違った理解かも知れませんが、今はそう思っています。

しかし、そうは思っても何かあると直ぐに古い自分の本質が頭をもたげ、心を覆ってしまいますが、これは「神様から

いのちの言⑩

…それで、そのために思い上がることのないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。この使いについて、離れ去らせてくださるよう、わたしは三度主に願いました。すると主は「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました…

(第2コリント 12章7～8節)

与えられた宿題」と受け止め、毎日の生活の中で自分自身に問いかけながら生きて行ければと思っています。

いつの日か、この宿題の解答を見出し、心からこの病を神様からいただいた賜物として感謝して歩むことができると思っています。

編集後記 今年で3回目となる「野外礼拝」は梅雨の晴れ間の汗ばむ陽気の中、平和公園「メタセコイヤ広場」でこどもの教会の礼拝、大人の礼拝と久しぶりに教会堂を離れ、青空の下で楽しく行われました。自由ヶ丘での「春のバザー」「野外礼拝」と、今年前半の行事も皆様の協力によって無事に終えることができ感謝です。これから年度後半の行事、そしていよいよ来年は「宣教100周年」を迎えます。いくつかの記念行事、記念誌発行など計画されていますが「愛」編集室も記念行事など、その都度紙面を通して伝えていきたいと考えています。また皆様には原稿依頼などご迷惑？をおかけするかも知れませんが宜しくお願いいたします。